

特集

病院のコスト管理

バブル経済破綻後のわが国経済の低迷，また少子高齢社会への急速な移行は，戦後わが国が築き上げてきた社会保障制度の抜本的な改革を余儀なくしている．近年の経済の低迷に伴う若年層の地方都市より大都市への転出は，平成 19(2007)年度以降に生じるわが国人口の減少に社会的な不安を投げ掛けている．社会保障制度をはじめとした種々の改革の断行が行われようとしている．

国民の身近な年金制度改革，また医療制度改革は最も重要な改革の一つである．昨年 4 月に改定された社会保険診療報酬のマイナス改定は，医療界においては衝撃的な出来事であったが，一般国民においてはこの数年間の物価の下落また一般企業におけるリストラ等の社会的な現象より考えれば，当然のことと思われる．今後も医療制度等の改革はますます加速され，国民の医療に対する目は一段と厳しくなることを，まず医療関係者は確認すべきである．

今後の医療制度改革における課題は，医療の安全を含めた「医療の質の維持」とそれに伴う「経営基盤の確立」である．当然のことながら，平成 16(2004)年度より施行される独立行政法人の国立関係の病院にも期待されているが，残念ながら民間病院も含めた多くの病院では，いまだ病院運営の基本である原価計算また部門別原価計算すら行われていないのが現状である．病院において原価計算の概念が積極的に導入されなかった理由であるが，わが国の医療を先進国のトップクラスに押し上げた社会保険診療報酬体系の功罪であると思われる．過去に実施されてきた社会保険診療報酬の改定は，病院運営の基本的なコストを反映した形で実施され，経営上の対応を考慮せずに運営を行うことが可能であった．民間病院においては，一定の施設基準また人員基準を満たせばほぼ収入が確保される経営環境であったし，国立，公的病院においては，潤沢な財源投入に伴う社会的な意義が優先されてきた．

今後のわが国経済の成長が確認されていない現在，現行の医療制度改革のスピードはますます加速されるであろう．平成 19 年度以降のわが国人口の減少は，地域における疾病構造の変化を生じさせ，病院間の競争また医師をはじめとした医療スタッフの質の選別が展開されることになる．今後の病院は，地域の疾病構造の変化また地域住民の的確なるニーズを把握し，病院での医療の質を高めつつ経営の安定を図ることがポイントである．今後予定されている各種医療の改革は，まさに病院相互の戦国時代への突入を暗示している．病院経営の基本である社会保険診療報酬体系であるが，本年 4 月より特定機能病院に導入された DPC(diagnosis procedure combination)へと向かうことは間違いない．医療の質と経営の安定をいかにアレンジするかが各病院に求められている．診療に伴う原価計算を行い，コストの分析，コスト管理のための組織構築を行うことが緊急の課題であり，地域社会からも要請されていることを認識しなければならない．

(井手 義雄)